

LMSで時間外学習の機会は 確実に増えた取組み

関西大学教育推進部
岩崎千晶

<http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~ciwasaki/>

岩崎千晶 (Chiaki Iwasaki)

所属 関西大学 教育推進部 教授

教育開発支援センター センター長

日本教育工学会 理事

日本教育メディア学会 理事

大学教育学会 理事

専門

教育工学, 大学教育学, 学習環境デザイン

著書

新刊! 『学びを育む 教育の方法・技術とICT活用：教育工学と教育心理学のコラボレーション』 (編著) 北大路書房 2024年

『大学生の学びを育むオンライン授業のデザイン』 (編著) 関西大学出版部 2022年

『教育工学選書II 教育工学における大学教育研究』 (共著) ミネルヴァ書房 2020年

『大学のゼミから広がるキャリア：構成主義に基づく「自分探し」の学習環境デザイン』 (共著) 北大路書房 2020年

『主体的・対話的で深い学びの環境とICT』 (共著) 東信堂 2018年

『教育の方法と技術：学びを育てる教室の心理学』 (共著) ナカニシヤ出版 2017年

『教育工学選書II 大学授業改善とインストラクショナルデザイン』 (共著) ミネルヴァ書房 2017年

『大学生の学びを育む学習環境デザイン』 (編著) 関西大学出版部 2014年 等



授業外学習で育みたい力を明確にする

- テーマへの興味関心を高める：テーマに関する話題の提供（動画、資料）
 - 学習内容を理解する：学習に関連する問題の提示
 - 知識の定着をはかる：反復問題の提示
 - 応用力を育む：ほかの場面にも活用できそうな学習課題の提示
-
- 学生が授業時間外学習の重要性を理解できるように説明する
 - 形式的な評価の導入をする

講義で活用するための

関大LMSあれこれ

第1回

これだけ見たらわかる！
関大LMSでできること

こんなことに困っていませんか？

- ☑ 出席確認や教材配布に時間がかかる
- ☑ 学生に意見を求めても出てこない
- ☑ 学生の理解度の確認がとれない
- ☑ アクティブ・ラーニングの実施の仕方がわからない
- ☑ レポートや成績の一元管理が面倒

効率性UP

学習効果UP

積極性UP



「関大LMSあれこれ」今後の発行内容



第2回以降は、関大LMSを利用されている先生方の講義や演習をもとに、関大LMSによるeラーニングコンテンツの活用方法例を紹介いたします。

第2回

はじめてでも安心！ 学生も使いやすい関大LMS
・これから関大LMSを利用しようと考えている先生方へ
関大LMS利用の最初のポイントからサポート(Q&A)まで紹介します

第3回

資料配布はエコで、出席管理は省エネで
・紙による資料配布や出席管理が煩わしいと感じている先生方へ
最も利用頻度が多い資料配布や出席確認の方法を紹介します

第4回

時間外学習の小テストとレポート作成で講義の理解度を深めよう
・学生の自主学習を促し、理解度を見ながら進める方法を紹介いたします

第5回

効果的な成績管理を実現しよう
・すべてを一元管理可能で、クラス間の調整も簡単に可能、コピペの簡易チェック機能も搭載されている、関大LMSの成績管理機能を紹介いたします

第6回

アンケートを利用して参加型授業を手軽に実現しよう
・アンケート機能を利用して授業中の双方向のコミュニケーションや
授業後のアフターフォローを行う方法を紹介いたします

第7回

授業時間外の学びを促進する会議室利用のすすめ
・アクティブ・ラーニングに挑戦したい先生方に向けて、会議室の実用例
とその効果を紹介いたします

第8回
[番外編]

インストラクショナルデザインを活用して、授業設計をしよう！
・効果的なeラーニングを実施するため、授業設計の段階から考えます

コンピュータシステム序論

- 1年生向けの講義科目
- 多人数講義
- 小テスト・レポート
- 理解度を深める

講義で活用するための 関大LMSあれこれ

第4回 時間外学習の小テストとレポート作成で講義の理解度を深めよう

[担当教員] 徳丸正孝(関西大学 システム理工学部 教授)
[科目] コンピュータシステム序論

今回の3つのPoint

- レポート・小テストを実施することで、紙媒体では難しい、学生の理解度に応じて授業を進めることが可能
- 授業時間外における学生の自主学習機会の提供
- 教員が考える以上に学生はパソコン・スマートフォンを活用でき、気軽に実施

授業概要

- 対象** システム理工学部電気電子情報工学科で開講されている1年次生向けの講義科目
- 人数** 202名、2クラスに分けて開講される多人数講義。
- 内容** コンピュータのハードウェアとソフトウェアの動作原理
データベースやスプレッドシートなどの代表的なアプリケーション・ソフトウェアの仕組み
インターネットによるマルチメディア情報通信の仕組みや情報セキュリティなど

出席管理



資料公開



テスト・レポート



様々な形式のテスト・レポートを簡単に作れます。期限設定などの多くの機能も搭載。類似レポート検索やレポート返却も可能。

アンケート



協働学習
(会議室)



メンバー管理
・成績管理



関大LMS序論

問題意識

講義・演習を進める上での問題点 ①

学生の理解度がさまざま

コンピュータやインターネットに関連する様々な技術を網羅的に紹介する講義であり、1回の講義で3個のトピックを取り上げて解説するため、学生側からすれば相当にハード。



学生も大変

講義・演習を進める上での問題点 ②

レポートの細かなチェックや共有が難しい

毎週、紙媒体レポートを提出してもらうことで学生の理解度を確認していたのですが、200名を超える受講生のレポートそれぞれに対して手書きでコメント等を記入して返却するのは難しく、受講生全体で指摘内容を共有することもできない。



教員も大変

レポート・アンケート機能への期待



1
個々の学生に応じた理解度の細かなチェック



2

スマートフォン対応なので、手軽に講義内容の復習や自主的な時間外学習が可能。



3

集計機能で大人数でも返却が可能、全体での共有も可能。

授業における課題

- 多人数講義であるため学習者の理解度が異なる
- 多人数講義のため、細かなレポートの確認が難しい

関大LMSを利用してよかったところ

レポート

レポート課題を毎回出題し、次回の講義の開始までに関大LMS上に提出してもらうことで、受講生の時間外学習が促進された。

レポートに400~600文字という文字数制限を設けることで、指定文字数で文章を作成する訓練ができた。

レポートに対する講評を関大LMSの資料として登録し、多くの受講生が読解している箇所や、理解が不足している箇所の補足説明などを全体で共有することができた。

資料に対する各受講生のアクセス回数から受講生の復習回数も確認できた。



小テスト

スマートフォンでいつでも実施できるように、すべて選択式問題。

毎回の講義の内容に関するテストを4~5問用意。

アクセスの期間や回数に制限を設けずに受講生が自由に取り組める。

ここがPoint

講義終了後から次回の講義の開始までで実施期間を制限したところ、多くの受講生から

復習のために、いつでもアクセスできるようにしてほしい

との要望が多数あった。



効果 時間外学習の機会は確実に増えたと実感している

- レポート全体への講評を実施し、不足している点の補足説明をする

- 小テストでは知識の定着をするため何度も取り組めるようにする

学生の反応

実施する前の懸念

- ◎ 1年次生の春学期配当科目で、いきなりICTをフル活用する講義はどうだろうか？
- ◎ 基本的に講義中にパソコンを開いてレポート用のメモを取ることや、スマートフォンで資料や小テストにアクセスすることを奨励した。学生は対応できるだろうか？

肯定的な点

- ◎ いかにも電気電子情報工学科の授業という感じで新鮮
- ◎ 講義終業後の昼休みに、その場でスマートフォンを使って小テストに取り組む学生が多く、中には、教室に残ってお弁当を食べながらパソコンでレポート作成に取りかかる受講生もあり、殆どの学生は関大LMSをうまく活用して学習に取り組んでいる。

改善点

from ITセンター

- ◎ 自宅にパソコンが無いと辛いと感じる学生が → ICT環境のより一層の構築に努めます
- ◎ 作成したレポートのWordファイルがアップロードできないなど、受講生のPC環境によると思われるトラブルが少数ながら存在し、対応に多少苦慮した。 → 現在、トラブルはメールでサポートしていますので、ぜひ活用をお願いします。
✉ kulms@ml.kandai.jp

- 学生からはおおむね好評
- 授業が終わった後に、そのまま復習に入る学生の姿も

「テスト・レポート機能」のワンポイントアドバイス



テスト

【採点・結果表示】内にある【回答の見直しを許可】を【しない】に設定した場合、テスト・レポートを実行するたびに回答が新規作成されます。また、【する】に設定した場合は、最後に提出した回答が保存(上書き保存)されるようになっています。

レポート

【レポート】の場合、【回答の見直しを許可】は自動的に【する】になっていますが、過去の提出レポートを保存したい場合は【しない】に変更すれば保存できます。

今回は、アンケート機能を用いて実現した双方向授業を紹介します。

そのほかにも…

- 小テスト、レポート
- 電子掲示板での意見交換
- 動画の視聴
 - 反転授業の実施 事前学習：動画視聴、小テスト等の学習活動
対面授業：事前学習の振り返りからスタート

授業外の学習で、学習者を支援する

- 学習者がどこで躓いているのかを自分で確認できる機会を設ける
- 教員が学習者の躓きを支援することは重要である

ありがとうございました！

岩崎千晶

ciwasaki@kansai-u.ac.jp

